

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101914		
法人名	社会福祉法人 安原福祉会		
事業所名	あいの里 2階		
所在地	和歌山市相坂651-3		
自己評価作成日	平成30年4月25日	評価結果市町村受理日	平成30年8月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3070101914-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=02">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3070101914-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成30年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人が高齢者介護において最重要と考えているのは地域にむけた施設、地域と共にささえていける施設を目標としています。同法人のデイサービスや小規模多機能型事業所が隣接し、日常的に交流が深いです。日常の介護においても本人の自己決定を大事にし、入居者の方がゆったりとした時間の中でコミュニケーションを図り入居者、家族の方が安心して日々を過ごしていただけるよう支援しています。そういった中で本人・家族の方が施設内で看取りを希望される場合は当人・家族・医師・医療機関・事業所スタッフと話し合い、相互に支え合いながら支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念について、事業所職員で話し合い、事業所理念を作成。日々職員同士で話し合い共有。理念を振り返りながら、日々のケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物、ゴミ捨て等で外出すると地域の皆さんと挨拶をしたり立ち話しをして馴染みの関係になっている。地域の展示会等に利用者様が作った作品を出展させていただき、見に行ったりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の神社のもち拾いに参加したり、当法人主催の祭りの際に地域の方々参加いただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施し、現在の利用者の状況実践の報告を行い取り組み意見交換をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へ相談や分からない事等聞きに行く事がある。運営推進会議等でセンターの職員と話しあい、認知症になっても安心して地域を感じながら過ごして頂く事ができるように話し合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修などで身体拘束をしないケアについて知識を身に付け、社内研修を行う。施設内、事業所内で共有し、何が身体拘束であるのかを理解し、行わないよう、施設全体で心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を受けた職員が内部研修で発表を行い、虐待防止について学ぶ機会を作っている。ホール内にカメラ設置しており、虐待防止につとめている。		

あいの里 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様は現在おられません。権利擁護の研修を受けた職員より内部研修で発表があり、職員全員が周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず入居前、事前に家族と話し合いグループホームについて説明をさせて頂き、納得して頂いてから入居の契約を行っている。改正時には、改正についての書類作成し説明を行い、充分理解して頂いたうえで同意書にサインしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には訪問時、家族会等で常に問いかけ普段から何でも言ってもらえるような雰囲気づくりをしている。家族様の意見、要望等は職員同士で話し合い、前向きに検討を行っている。面会が少ない家族様には電話等でお話しさせていただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場で起こったトラブル、スタッフの不满等や入居者様の介護に対する不安、入居者家族の要望等は管理者を通じ聞き出し解決に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者及び幹部が現場に来ており入居者様と過ごしたり個別職員の業務や悩みを把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも多くの職員が受講し、それらの研修報告は内部研修にて報告し、職員全員が周知出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの研修会や外部研修等へ参加することで関連の事業所等と交流を持つことにより最新情報の共有や他事業者や他ユニットの情報を共有、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状態を把握するよう努めている。また、本人にもホーム内を見学していただき、本人や家族の意向を聞き安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が困っていることを理解し入所後において頻繁に連絡を取り合い不安や困っていることに対応して信頼関係を構築出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問時等本人家族の想いを理解し、生活背景を知り活用しながら、本人が安心した生活を送れるよう支援。計画作成に生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような気持ちで過ごせる様、職員全員で取り組んでいる。本人の生きがいや、やりがい等を感じられる様に、1人ひとりを把握し、毎日の生活を生き活きと暮らして頂けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけで入居者様の介護に努めているのではなく、家族様と一緒に同じ方向を向いた介護が出来るよう、普段からコミュニケーションをとり信頼関係を構築出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様に許可をもらったうえで知り合いだった友人の方に面会を行って頂いています。年賀状をもってきてくださる方もおられます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で円滑にお話しできるか、職員が入った方が円滑にすごしていただけるかの見極めを行っている。孤立にならないよう、座る位置を考え直したり等、いろいろな方法でアプローチしている		

あいの里 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、施設、病院の紹介等の支援を行ない、家族の方が安心して利用者の方が生活できるよう工夫している。運営推進会議の委員さんに元利用者様の娘様に参加していただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け暮らしの希望、意向の把握に努めている。意志疎通が困難な方については家族様や関係者から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの馴染みの暮らしや人生背景を家族様に聞いたり担当の居宅介護支援専門員に情報をもらい、これまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握し、日々のケア方法を職員と相談しながら、良いものへと変更していっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の情報収集を日々行っています。面会や家族会等の時に家族様に介護や生活面等の希望を伺っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務開始前の申し送りと、日中職員全員集まった時の申し送りを義務付けている。入居者様個別にファイルを用意し食事、水分量、排泄等身体的状況及び、日々の暮らしの様子や本人の言葉等記録し、全ての職員が確認出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人運営事業でデイサービス、小規模多機能、有料老人ホームがあり、そこでグループホームの入居を待たれている方も多いので法人内で連携を行う場合もある。		

あいの里 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市からオムツの支給を受けられる資格のある方には家族にお伝えしたり、地域の図書館へ訪問したり美容院から訪問美容に来てくれたり地域住民と共に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族の希望を尋ね施設の協力医か以前のかかりつけ医の継続かを決めて頂き、対応を行っている。皮膚、整形、耳鼻、歯科等、主治医や家族と相談した上で受診、往診お願いしている。受診の支援は職員が付き添い、状態を説明する。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言や医療行為等の対応を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、利用者の状態について聞きに行き事業所内で対応可能な段階であれば、なるべく早く退院できる様にアプローチしている。認知症の進行を防ぐためにも、早期退院に向け対応行う。退院後も病院と連絡を取り合える関係になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を主治医と職員が相談を行いながら作成し、事業所が対応し得る支援について説明を行い相互に納得し支援を行っている。本人や家族様の意向を踏まえ医師、職員が連携をとり安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命救急法の講習を受講し対応方法を学んでいる。緊急時の連絡方法及び対応方法についてはマニュアル化し職員同士で共有できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを制作、年2回の消防訓練を行っている。地域の協力体制については運営推進会議や自治会に協力を呼びかけている。以前あった洪水からの水害で他事業所と協力し対応行う事になった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人記録は鍵のついた所に保管し、他の利用者や他家族様の目に届かないようにしている。排泄、入浴、更衣等の声掛けに充分配慮し、本人の希望等を尊重して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中でのコミュニケーションで本人の思いや希望を聞き出している。個々に合わせた声掛けを行い、本人の不安軽減を図っている。本人の思いに否定的にならず、しっかり向き合いながらコミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の思い、家族の思いを尊重し、習慣等を把握する。体調や気分を考慮し、本人が安心して楽しく笑顔で過ごせるよう一回でも多く一日の中で笑顔が見れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた服装や好きな服装ができるように声掛け介助を行いながら、好みの服を選択してもらうように支援している。外出時には化粧等、おしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは入居者と相談しながら決めるようにしている。また調理、盛り付け片づけ等も入居者と共に行い職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるような雰囲気づくりも大切にしている。入居者様が誕生日の際は、その方の好きな物を提供出来るよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と1日の食事摂取量を把握している。ラコール、トロミ、ミキサー食等、本人の状態に応じ提供出来る様に支援している。栄養不足と診断された方には、主治医と相談し経腸栄養剤の使用を行っている。又、水分補給についても記録を行い支援につなげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の入居者の自立度、口腔状態に合わせて対応を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。入居者様によってはお預かりしている。本人様や家族様の希望により歯科の往診のお願いもしている。		

あいの里 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、入居者の排泄状態を記録、その記録を生かし個別の排泄支援をしている。出来る限りトイレで排泄を実施できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容として乳製品、繊維質の多い食材を提供し、ラジオ体操等で身体を動かしていただいたり、水分補給を多く行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	今までの生活歴、本人の希望に合わせて対応し、入浴を拒む方には言葉がけや対応を職員全員で工夫していき、本人に納得して入浴してもらえるように支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操やレクリエーション、作品作り、計算ドリル等、本人様の好みに合わせて、日中の活動を促しています。そして、入居者様の体調や表情、希望等を考慮して休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から服用している薬の説明書を頂き、個人のファイルに入れており、職員が内容及び服薬作用を把握できるようにしている。変更があった場合体調変化がないか確認し、体調変化があった場合は主治医に相談行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、手伝えば出来る事、本人がしたい事を把握し、生きがいを見つけ入居者様が笑顔で生活できるよう支援行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に合わせて、ドライブ、買い物、花見外食などに外出している。家族様からの外出願いにも、主治医と相談行いながら柔軟に対応している。		



あいの里 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の物を買うときは、基本立替えで支払いを行っている。また、買い物時等には職員が利用者にお金を渡し、支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙が出来る体制にあります。年末には年賀状を作っていたり、文字が書ける入居者には家族様へのメッセージを書いていただき送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と一緒に季節にあった壁画等作り飾っている。ベランダにはプランターで野菜作り、花を植え世話が出来るようにしている。生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら、暖かい雰囲気でも暮らしの場を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の相性に合わせて、食堂の椅子の配置を変えたり、リビングに長いソファを置き居心地の良い空間を作っている。共有空間の中で他の人の気配を感じながらも少し離れたところで一人になれる場所をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族様に家の様な雰囲気作りの為、愛用されていた家具を持ち込みに協力して頂く。家具だけでなく生活の安らぎを得られるよう馴染みの物も持ってきて頂く。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来る事」「わかる事」を理解した上で、車椅子や歩行器等、お箸や時計の配置なども、本人が使いやすいよう、工夫を行っている。		